

工事中の溶接火花によるウレタン断熱材火災

平成17年8月24日（水）午後4時40分ごろ、札幌市の新築工事中の駐車場ビルで、溶接火花がウレタン断熱材に着火する火災があり、1階部分約800平方メートルを焼き、作業員等約200名が避難しました。発泡樹脂の火災危険性について、本シリーズの No.2 として平成16年10月5日にホームページ上に掲載し、さらに機関誌 Safety & Tomorrow No.102(2005)7月号に「発泡樹脂の火災事例と危険性」を掲載したところであります。発泡樹脂の火災の内、樹脂製造工程での火災以外のは、工事中の溶接・溶断火花によるものです。建築、改修、解体等の工事に際しては、ウレタンフォーム等の火災危険性の高い断熱材が使用されていないかを確認し、火気使用部位周辺のウレタンフォーム等可燃物の除去、防災シートによる養生、散水等の火災防止対策を徹底する必要があります。発泡樹脂は火災危険性が高く、死傷者を伴う火災事例も多く発生しています。是非、添付の機関誌記事「発泡樹脂の火災事例と危険性」をご参照の上、防災に役立ててください。